

交通アクセスに恵まれた立地や評判も良好 一人診療所として道内トップクラスの手術実績



手術の様子を窓越しに見守れる家族控え室



十分な広さと各種機器の揃うリハビリ室



理事長・院長 北川 道生

1985年北海道大学医学部卒業。同大学医学部附属病院脳神経外科を振り出しに釧路労災病院、岩見沢市立総合病院、日鋼記念病院の各脳神経外科勤務。苫小牧市立病院(脳神経外科診療部長)で延べ8年務めた後、2005年6月に苫小牧東部脳神経外科開院。日本脳神経外科学会認定専門医。日本医師会認定産業医。

外科・脳神経外科

人口増の続く苫小牧市内東部の沿ノ端地域にある診療所。新千歳空港や道央自動車道、日高道、バスやJRを含む交通アクセスに恵まれた立地条件と、一人診療所としては市内中心部の大型病院にも劣らない道内トップクラスの手術実績で評判も良い。このため多くの来院患者を抱え、地域の救急医療の一翼を担っている。より現場に近い医療を目指した診療所の開院から今年で11年目を迎えた。

北川院長は30年以上のキャリアを持つ脳神経外科専門医。「苫小牧を中心とする東胆振・日高地域における医療提供に努め、医師という職業人としてベストを尽くす」と意欲を燃やしており、診断から手術までの一貫したケア、急患の受け入れ、病気の予防にも力を注ぐ。脳外科専門医は数が少ないことから、「やがては後進の育成も図りたい」と話す。

「脳疾患をめぐる病気で最も恐ろしいのが、脳動脈瘤破裂による、くも膜下出血」と北川院長。前兆があることは稀で、働き盛り世代での発症が多く、突然大病に見舞われるのがほとんどという。このため同診療所では、普段病院に通っていない人も含めて3〜5年に1度の脳ドック検診を薦めている。ま

た、近年は「頭が痛い。ひよっとして脳梗塞？」と心配して来院する人も多いよう。その大半は偏頭痛で過度の心配は不要という。脳神経外科を受診する上で大きなポイントとなるのは突然頭痛が出現した、口がもつれる、半身不随があり歩けないといった症状が見られるときなどで、入院治療や手術が必要となる場合もある。北川院長は「心配があればご来院を」と目を細める。

同診療所の大きな特長は、手術を公開していること。手術室の隣に家族控え室を設け、患者の家族が手術の様子を窓越しに見守れるよう配慮している。「脳外科では国内でも珍しいのでは」と、こだわりをアピールする。

また、遠方からの患者さんの利便性を考え、何度も足を運ばなくて済むように、頭部MRI(脳の断面写真)とMRA(脳の血管の形状)を極力1回の受診で済むよう取り組みも進めている。MRIは脳腫瘍や脳出血などの病気を発見するためのもので、MRAは動脈瘤など脳の血管の状態を見るもの。北川院長は「必要な検査を極力1回で行うことで病気の早期発見や予防、患者さんの負担軽減にもつながると考えている」と話している。

脳神経外科・放射線科・リハビリテーション科

医療法人社団

苫小牧東部脳神経外科

苫小牧市北栄町2丁目27番27号 ☎(0144)53-5000
ホームページ <http://tomakomai-e-neurosurgery.jp/>

診療時間/
月・火・水・金/9:00~12:30 14:00~18:00
木・土/9:00~12:30
(木曜午後は手術・検査日)
休日/日・祝日

